調査結果の概要

１.あなたご自身のこと

第 4 回調査の分析対象者は 810 人で、男性が 94.4%、セクシュアリティではゲイが 82.4%を占めていました。年齢の中央値は 47 歳で、過去 3 回の調査と比較して上昇していました。一人暮らしは 54.9%でした。回答者の居住地は全国に広がっており、東京都が 33.7%を占めていました。健康状態では、医師から AIDS を発症していると言われた人が 24.6%、最新の CD4 細胞数が 501 個/μL 以上の人が 58.3%、血中ウイルス量が検出限界未満の人が 72.5%でした。

２.健康状態

HIV 陽性判明前に定期的に HIV 検査を受けていた人は 18.0%にとどまっていました。定期的に検査を受けていなかった 664 人のうち、その理由として「自分は HIV に感染することはないと思っていた」を挙げた人が 43.2%と最も多く、「検査を受ける気力がわかなかった」も 22.7%でした。HIV 検査を受けたきっかけは、全体の 39.1%が体調の悪化で、17.4%が感染したと思われる行為でした。HIV 陽性の可能性を初めて知ってから 1 か月以内に医療機関で診察を受けた人は 75.3%でした。現在の健康状態については、回答者全体の 60.4%が「よい・まあよい」と回答し、過去の調査と比較して増加傾向にありました。また過去 1 年間に体重が増加した人は 34.8%、減少した人は 11.7%でした。

３.通院

この 1 年間に HIV 感染症で定期的に通院していた人は 96.3%で、前回調査とほぼ同水準でした。通院中の 780 人では、通院先はブロック拠点病院が 29.1%と最も多いものの、前回の 38.4%から減少し、診療所・クリニックは 7.8%から 12.1%に増加していました。通院頻度は 3 か月に 1 回が 73.2%を占め、医療機関への満足度は 87.8%でした。一方、看護師・コーディネーターナースへの相談は前回の 46.8%から 32.7%に減少していました。回答者全体のうち、過去 1 年間に精神科・心療内科を受診した人は 28.1%でした。かかりつけ医がいる 370 人のうち、HIV 陽性であることを伝えている人は 48.1%で、約 45%はマイナンバーカード（保険証）の使用を何らかの理由で避けていました。また、かかりつけ歯科医がいる 446 人のうち、HIV 陽性であることを伝えている人は 43.9%でした。歯科医に HIV 陽性であることを伝えた 207 人（一部に伝えていない人を含む）のうち、過去 5 年間に受診を断られた経験がある人は 14.5%でした。

４.恋愛・性の健康

特定の付き合っている人・配偶者や恋人がいる人は 45.6%で、そのうち 76.2%が相手に HIV 陽性であることを伝えていました。一方、HIV 陽性を伝えて交際や結婚に至らなかった経験がある人は 18.9%でした。この 1 年間にその場限りの相手とセックスした人は

57.3%で、そのうち 82.8%は相手に HIV 陽性であることを伝えていませんでした。挿入時に常にコンドームを使用した割合は、恋人・配偶者とのセックスで 27.6%から 18.8%、特定のセックスパートナーでは 25.3%から 14.1%、その場限りの相手では 16.0%から 10.3%へと、いずれも前回調査より低下していました。また、U=U の認知度は 90.2%、PrEP を聞いたことがある人は 94.4%と高い割合でした。梅毒にかかった経験がある人は前回調査の 33.3%から 40.7%に増加していました。

５.物質使用（アディクション・依存症）

医師から依存症と診断された経験がある人は、薬物依存症が 5.2%と最も多く、ニコチン依存症が 3.7%、性依存症・性的強迫症が 2.7%でした。一方、診断はされていないものの、自分に依存傾向があると思う人では、スマホ依存が 23.5%、性依存が 17.5%、ニコチン依存が 15.9%でした。過去 1 年間にレクレーショナルドラッグを使用した人は、ラッシュや勃起薬を含めると 45.7%、除くと 11.8%で、いずれも前回調査より増加していました。薬物別では、覚せい剤を使用した人が 4.2%、大麻関連ドラッグのいずれかを使用した人が 6.9%でした。また、市販薬を規定の用法・用量以外で週 1 回以上使用した人は、睡眠剤で 4.8%、鎮痛剤で 3.7%でした。

６.子どもを持つこと

HIV 陽性者が子どもを持つための方法について 63.1%が「よく知っている・少し知っている」と回答しましたが、「まったく知らない」人は前回調査の 30.5%から 36.9%に増加していました。HIV 陽性を理由に子どもをあきらめた経験がある人は、回答者全体の 14.4%から 10.9%に減少していました。あきらめた経験がある 88 人のうち、その理由として経済的な問題を挙げた人が 23.9%で最も多くなっていました。回答者全体のうち、実子を望む人は 13.5%、養子を望む人は 9.0%、里子を望む人は 7.4%でした。一方、子どもがいない人は全体の 92.8%で、子どもがいる 57 人のうち 70.2%は、自身が HIV 陽性であることを子ども全員に伝えていませんでした。

７.周囲の人々

HIV 陽性であることを誰にも伝えていない人は 11.9%で、前回調査の 10.2%から増加していました。HIV に関連する悩みを相談できる人が誰もいない人も 7.3%から 11.4%に増加し、体調が悪くなった際に付き添いや介助をしてくれる人がいない人は 26.0%でした。HIV 陽性であることを他人に話す際に用心する人は直近 1 年間で 80.4%と高く、スティグマが依然として強く感じられていました。また、LGBTQ+であることを学校や職場で隠している人は 72.1%でした。LGBTQ である回答者のうち、過去 5 年間に医療者から LGBTQ+に関連する偏見や無理解を感じた経験がある人は 9.0%で、自由記載では侮蔑的な発言、セクシュアリティや感染経路についての執拗な質問などが報告されていました。LGBTQ の回答者 756 人のうち、周囲の LGBTQ+に関連する偏見や無理解によって通院や健康管理に支障が生じたり、必要な行動をためらったりした経験がある人は 8.6%でし

た。職場では、通院理由や病名を執拗に尋ねられた経験が挙げられていました。ピアミーティングを知っている人は 59.5%でしたが、参加経験がある人は 28.8%でした。

８.こころの健康

不安や抑うつについて HADS を用いて評価したところ、不安障害の可能性が極めて高い人は 28.4%、うつ病性障害の可能性が極めて高い人は 26.2%で、いずれも一般人口より高い水準でした。HIV 陽性判明後、生きがいや人生の楽しみが減った人は 35.8%、人生を乗り越える自信がなくなった人は 31.8%でした。一方で、人や社会のために役立ちたいという思いが強くなった人も 31.1%、健康に注意を払うようになった人は 64.2%いました。ストレス対処力を示す首尾一貫感覚（SOC）の平均得点は 53.7 点で、一般住民の 59 点より低い水準でした。また、回答者 810 人のうち、過去 1 年間に自殺を本気で考えた人は 29.1%、自殺を計画した人は 4.7%、自殺を図った人は 2.1%で、一般人口と比較して高い水準にありました。

９.就労と福祉サービス

収入を伴う仕事を持っている人は 84.8%で、過去の調査とほぼ同水準でした。就労者の多くは一般雇用枠で働いており、過去 5 年間に HIV 感染を理由として離職した人は 4.1%でした。自由記載では、職場での偏見や差別、退職勧奨、通院と仕事の両立の困難、HIV 陽性であることを職場に知られる不安などが挙げられていました。現在の暮らしを経済的に苦しいと感じる人は 50.5%、将来の生活に経済的な不安がある人は 86.4%でした。免疫機能障害による身体障害者手帳を取得している人（申請中を含む）は 91.2%でしたが、取得まで 3 か月以上かかった 160 人のうち 50.0%は認定基準に合わなかったことを理由に挙げていました。身体障害者手帳を取得した人（申請中を含む）739 人のうち、手帳を取得できないために抗 HIV 療法の開始をやむを得ず延期した経験がある人は 16.4%で、2021～2025 年に HIV 陽性と診断された人では 28.4%でした。

10.健康管理と老後

現在、抗 HIV 薬による治療を受けている人は 93.3%で、治療中の人の 72.5%が 1 日 1 回 1 錠の飲み薬を使用していました。治療への満足度は 87.7%と高い一方、治療によって HIV 陽性であることが周囲に知られる不安を感じる人は 49.1%でした。予防接種については、新型コロナウイルスワクチンの接種経験がある人は 83.5%、季節性インフルエンザは 74.1%でしたが、B 型肝炎は 19.0%、A 型肝炎は 14.1%にとどまっていました。高齢期に不安を感じる人は 89.5%、HIV に関連した老後の不安を感じる人は 79.3%で、いずれも前回調査とほぼ同水準でした。HIV に関連した老後の不安がある 642 人では、症状や合併症の出現への不安が 79.4%、在宅サービスの利用制限への不安が 68.4%、高齢者施設への入所拒否への不安が 66.4%でした。行政・介護サービスへの要望では、安心して利用できる在宅サービスの充実が 64.1%で最も多くなっていました。また、ヘルスリテラシーの総合得点の中央値は 29.2 点で、前回調査と同じ水準でした。